

釧路湿原自然再生協議会 再生普及小委員会

第18回再生普及推進のための連携チーム議事要旨

■日 時：2024年2月15日（木）13：30～15：30

■場 所：釧路地方合同庁舎 5階 第1会議室

■出席者（敬称略・順不同）

<専門家>

- ・高橋 忠一（再生普及小委員会 委員長）
- ・新庄 久志（再生普及小委員会 委員長代理）
- ・照井 滋晴（湿原再生小委員会 委員長）

<小委員会事務局>

- | | |
|--------------------------------|-------------|
| ・国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 | 佐藤 豪、廣瀬 明子 |
| ・環境省 北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所 | 印南 陽子、萱島 拓郎 |
| ・林野庁 北海道森林管理局 釧路湿原森林ふれあい推進センター | 南 達彦、角田 和久 |
| ・北海道 釧路総合振興局 釧路建設管理部 | 渋谷 謙治 |
| ・北海道 釧路総合振興局 産業振興部 | 逸見 光寿、黒田 敬子 |
| ・北海道 釧路総合振興局 保健環境部 | 小野 誠士 |

<事務局>

- | | |
|---------------------------|-------------|
| ・環境省 北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所 | 境 耕平 |
| ・公益財団法人北海道環境財団 | 山本 泰志、安田 智子 |

■議事次第：

1. 開会
2. 学校と連携した湿原学習の推進について
3. 再生普及行動計画の評価について
4. 再生普及および地域づくりの合同小委員会における取り組みについて
5. その他（各小委員会からの提案・連絡事項等）
6. 閉会

■議事内容：

1. 開会

2. 学校と連携した湿原学習の推進について

学校支援ワーキンググループの取組みの紹介、次年度における協力を各事務局へ依頼した。

《主な意見》

- ・専門外の対応は難しく感じることもあるが、できる範囲で積極的に協力していきたい。
- ・普及の観点で子どもたちに教える機会を持ちたいと考えていたが、学校との接点がなくできていな

かった。今後連携できることがあれば積極的にサポートしていきたい。

- ・学校では探究学習の中で湿原学習を行っている。行政や専門家から情報を提供するだけでなく、子どもたちの課題に対する素朴な疑問に答えられる様に、つなぎの役目を担いたい。

3. 再生普及行動計画の評価について

令和6年度に実施する再生普及行動計画の評価に向けて、関係事項に関する情報提供の協力を各事務局に依頼した。

《主な意見》

- ・場合によっては外部評価も必要と考える。評価は数値化すると解りやすいが、数値で言い表せないものもある。この5年間でものの見方が大きく変化し、全体を見直すきっかけができたと思う。
- ・5年間の到達目標を明らかにする必要がある。5段階評価は一般の方にも理解しやすいが、根拠を明らかにした上で議論をおこなうための仕組みについても検討しておく必要がある。
- ・数値化による評価だけではなく、他の評価軸もあることもあらかじめ知っておく必要がある。評価のランク付けについても過度に細分化せず適切に分類できると良い。

4. 再生普及および地域づくりの合同小委員会における取り組みについて

照井湿原再生小委員長より、熊本県で実施されている「緑の流域治水スタディツアー」を例に、ツーリズムを活用した普及啓発の取り組みを検討する場を設けることが提案された。

《提案事項》

- ・熊本県では度重なる豪雨災害の経験から、産官学が連携した緑の流域治水が進められており、その一環として行われている「緑の流域治水スタディツアー」に参加した経験から、これを釧路湿原の自然再生事業に置き換えても実施が可能で需要もあるものと考えている。
- ・最終的には、釧路湿原自然再生協議会（以下、協議会）の取り組みをツアーに落とし込み、地域の旅行会社が商品化し、地域の方がガイドを行うことで地域経済にも貢献する仕組みとしたい。
- ・ツアーを協議会の中でデザインし、地域の旅行会社に対してモニターツアーを実施していくことで商品化につなげていければと思う。
- ・再生普及と地域づくりの合同委員会の前段階として2つの小委員会をまたぐワーキンググループを設置し、どのように釧路湿原に落とし込むか、実施の可能性も含めて議論する場を設けたい。

《主な意見》

- ・再生普及と地域づくりの各小委員会のこういった取り組みがつながり合同の小委員会を進める事ができるかを考えるキーワードとなるもので、ツーリズムとの連携が進んでいる本州の例に学ぶことで、釧路湿原でスムーズに取り入れていけるのではないかとといった提案である。協議会の中でこういった枠組みで進めるかを検討する必要がある、提案されたワーキンググループはどのような位置づけとなるのか、構成メンバー、各小委員会との関係等を整理する必要がある。
- ・行政では公的なイベントの支援を無料で実施しているが、普及の視点を主軸に置きながらも、こうした質の高いイベントを有料化し自立した運営を目指すことは、持続可能性の視点から重要である。可能な範囲で行政がサポートしていけると良い。
- ・茅沼の蛇行復元箇所、温根内木道、下幌呂、達古武の森林再生等、再生事業の効果を楽しんで体験できるメニューは多くあり、協議会として、資料や場所の提供、必要に応じて協議会のメンバーが案内できることを旅行業者等にPRする。手法としては、再生普及小委員会が各小委員会事務局と連携し、人、場所、時間、時期等を落とし込んだプログラム案シートを作成してメニュー化し、地域づくり小委員会が地元の業者等に提供する。まさにこうした取り組みが、再生普及と地域づくりの両委員会が合併することで、具体的に進めることができるのではないかとと思う。
- ・釧路開発建設部治水課、振興局、市町村で構成される流域治水協議会があり、各小委員会が結び付

くことで、さらに視野が広がりメニューの幅も広がると考える。

- ・農業協同組合なども関連する可能性がある。様々な団体と連携できる枠組みを作ることが必要だが、どこがハンドリングするかが重要。
- ・他の小委員会では合同委員会の開催時には共通テーマを設けている。今回提案されたエコツーリズムに発展させるのであれば、これを再生普及と地域づくりの両委員会の共通テーマの一つとして扱うというスタートの切り方もあるだろう。
- ・協議会の取り組みをツーリズムに提供するにあたり、全ての小委員会が関わることになるが、これを走らせる枠組みを検討する必要がある。再生普及と地域づくりが合併するのであれば、他の合併した小委員会とどのように連携していくのか検討していきたい。
- ・モデル的なプランを用意し、どこがハンドリングするか検討する、若しくは、どこかがハンドリングできるものを作ってやってみると良い。利益が見込めるようになれば業者も誘えるだろう。
- ・コーディネーションする主体として地域の大学はどうか。行政の作ったプログラムを学生がハンドリングし、旅行会社と連携し、学生、地域の人等がモニターとなり、モデルケースとして実施する。モニタリング結果を学生がとりまとめて課題や効果を明らかにし、マスコミを通して公表することでアクションが起こるのではないか。
- ・地域の大学は、地域の問題を共有する使命があり、モデルケースとしては良いと思う。
- ・今後のツーリズムの方向性を想定した上で、あるべき方向に向かうと良い。観光目線で考えると来訪者数などが評価軸となってしまうが、ここでの議論はあくまでもこの自然を永劫的に維持していく事が大前提であり一番大事なことにフューチャーされるような進め方が必要だろう。
- ・現在はツーリズム自体も多様化しており、評価、取り組み方も多様にできるであろう。
- ・一人一人に充実した体験や感動をもたらすことが重要であり、本来目指しているものを見失わないように進めていくことが必要。
- ・価格の安さよりも高い質が求められるようになっており非常に良い傾向。リピーター率も評価軸として考えられる。
- ・土砂流入小委員会では自然再生の見学ツアーを毎年実施しており大変好評を得ているが、若い人の参加を増やす手立てが無く悩んでいる。そこが解決すれば変化が出てくる。
- ・そこがツーリズムと連携するポイント。総合的に釧路地域で体験できるツアーのメニューに再生事業で提供するプログラムを入れてもらい、ツーリストが自由に選べる材料を豊富に提供する。普及啓発ではツーリズムが非常に大きなツールであるというのが今回の提案である。
- ・環境省では全国の各国立公園でフェノロジーカレンダーを作成している。釧路湿原におけるストーリーでは再生事業についても盛り込みつつ紹介しており、連携できると良い。
- ・既存のツアーに再生事業をテーマとしたオリジナルメニューが入ることで価値づけができる。一方で全てを再生事業のメニューとしても関心層しか参加せず特殊な研修旅行となってしまう。釧路地域、釧路湿原で体験できるものの一つとして、メニュー作りができると良い。

5. その他（各小委員会からの提案・連絡事項等）

《主な意見》

- ・再生普及と地域づくりの合併により、再生事業への関心が一層広がることを大前提として検討を進めたい。
- ・これまでの取り組みで得られたノウハウを上手く共有して相乗的に活用し、合併により新たに見出されるものを大切にしたい。
- ・取り組みにも多様化が求められており合併した新しい小委員会での役割になるだろう。

6. 閉会

以上